

2023年6月29日  
りそなアセットマネジメント株式会社

### お客さま本位の業務運営にかかる取組状況の公表について

りそなアセットマネジメント株式会社(以下、「当社」)は、2020年3月より、お客さま本位の業務運営に向けた具体的なアクションプランを策定し、その取組状況および成果指標(KPI)を公表してまいりました。

本資料では、『顧客本位の業務運営に関する原則』の改定に伴い2021年6月に策定した、「お客さま本位の業務運営にかかる取組方針<sup>1</sup>」(以下、「取組方針」)に基づき、2022年度の当社の取組状況について公表いたします。

詳細につきましては次頁以降をご参照ください。

当社は、当社のパーパス(存在意義)である「将来世代に対しても豊かさ、幸せを提供」することを通じ、お客さまに喜んで選んでいただける資産運用会社を目指しています。そして、パーパスの実現のため、またその前提となる資産運用会社の当然の責務として、引き続きお客さま本位の業務運営を行ってまいります。

以上

---

<sup>1</sup> 当社が2021年6月に策定した「お客さま本位の業務運営にかかる取組方針」につきましては当社ホームページの「お客さま本位の業務運営」(下記 URL)からご参照ください。

<https://www.resona-am.co.jp/investors/fiduciary.html>

なお、『顧客本位の業務運営に関する原則』の原則1【顧客本位の業務運営に関する方針の策定・公表等】に則り、今般当社の取組方針について一部見直しを行いました。

## 2022 年度の取組状況

### 1. お客様の最善の利益の追求

当社のパーパスは「将来世代に対しても豊かさ、幸せを提供」することです。そして、パーパスを実現することがお客様の最善の利益に繋がるとの考えのもと、運用において最も大切なことは「長期国際分散投資」であると信じています。

長期国際分散投資を効果的に提供するため、当社は「高品質なインデックス運用」、「長期的に再現性のある超過収益を生み出すことのできるアクティブ運用」を提供いたします。また、アセットマネジメントの重要性が増す中、「ユニバーサルオーナーシップ」の概念を取り入れ「責任投資」活動にも一層注力いたします。

#### ●アクティブ運用

- ・当社の年金向け主力アクティブ運用プロダクト(コスト控除前)においては、9 ファンド中 8 ファンド(過去 10 年実績)、6 ファンド中 6 ファンド(過去 20 年実績)でベンチマーク対比の超過収益を獲得しました。
- ・企業における ESG のリスクやオポチュニティ(機会)を統一的な基準で把握する事を目的とし、独自の ESG スコアである「りそな ESG 評価」を構築しました。「りそな ESG 評価」については、2023 年より、主要アクティブ運用プロダクトにおいて ESG インテグレーションプロセスへの反映を開始しています。
- ・各部の運用チーム単位で管理されていた個別企業のリサーチ/エンゲージメントに関する情報について、全社共通の情報共有プラットフォーム基盤を新規に導入しました。全社的に情報共有を行うことにより、効率的かつ実効的なリサーチ/エンゲージメント活動を行い、もって企業価値向上を通じた運用プロダクトのパフォーマンス向上を目指します。
- ・本邦企業の発行する SDGs 債を主要投資対象とする債券アクティブ運用を新規に開始しました。

#### ●バランス運用

- ・2022 年度は、未曾有の金利急上昇局面であり、債券資産のパフォーマンスがグローバルで大きく悪化しリスクも上昇したことから、バランス運用においてはリスク許容度に見合ったパフォーマンスとはなりません。ただし、3 年、5 年といった中長期ではリスク許容度に比例的なパフォーマンスを実現しています。
- ・2022 年のような金利上昇局面の対応のため、当社の一部のマルチアセット戦略について、債券資産の価格下落リスクのヘッジを目的とした短期資産の機動的配分比率変更プロセスの導入を実施しました。

## ●インデックス運用

- ・当社のインデックス運用においては、投資対象にかかわらず10年超の運用実績においてベンチマーク対比での乖離は殆ど生じておらず、公募インデックスファンドについても、トラッキングエラーは投資対象を鑑み妥当な水準となっています。

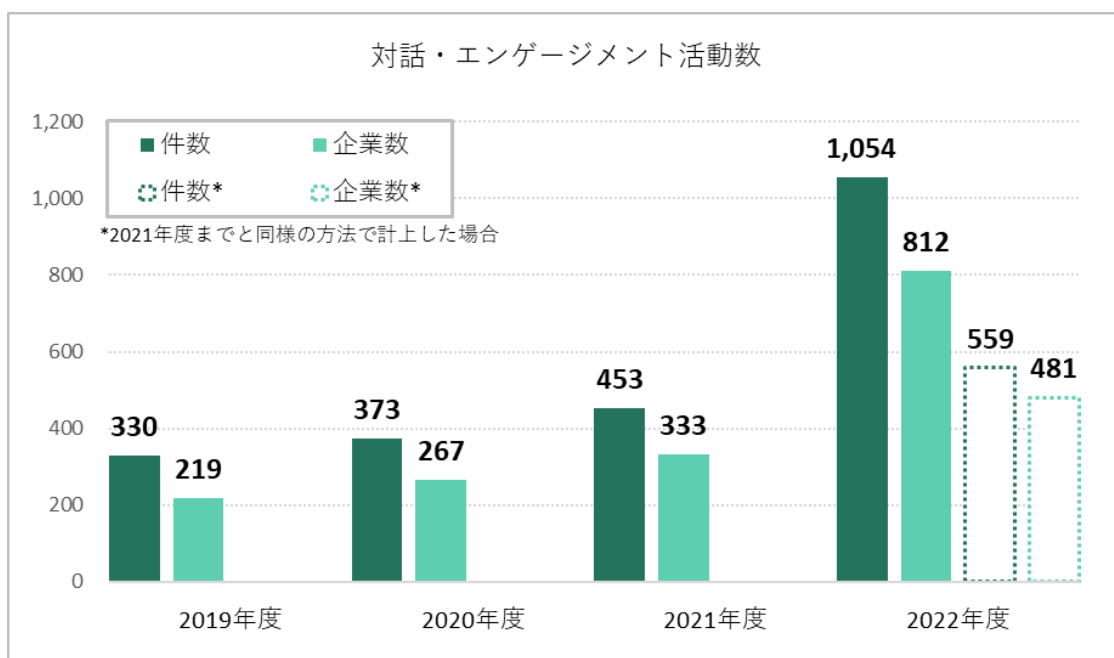
当社の運用プロダクトについては、運用担当部署での「運用品質管理ミーティング」、および四半期毎に開催される、運用ミドル部署による「運用評価委員会」にてパフォーマンスの評価・分析が報告されます。また、半期毎に社外取締役のみで構成される「ファンドガバナンス会議」を開催し、「運用評価委員会」での評価・分析結果を基に、プロダクトの運用品質の適切性について検証を行います。

※パフォーマンス実績数値については、別紙をご参照ください。

## ●責任投資

- ・企業との対話・エンゲージメントについて、企業からの投資家との対話ニーズが強まったことやコロナ禍が収束に向かったこともあり、2022年度は昨年度実績を上回る件数となりました。なお、当社では企業に過度な負担を強いることがないよう、エンゲージメント活動のクオリティを重視し、適正な活動数の維持を目指す方針に変更はありません。

	2023年3月(件数/企業数)	2022年3月(件数/企業数)
対話・エンゲージメント活動数	1,054/812	453/333



※これまで、本項目ではエンゲージメント活動数を報告していましたが、2022年下期より「対話」と「エンゲージメント」を区別せずに計上する方針への変更を行ったため、2022年度は前年度と比較し活動数が大幅に増加しています。

※上記のグラフの2022年度の数値について、上期はエンゲージメント活動数のみを計上しています。

※2022年度の数値を昨年度までと同様の方法で計上した場合は559/481(件数/企業数)となりました。(グラフ点線)

・2022年度は、責任投資にかかる各種方針を整備しました。具体的には下記方針を新規に制定しました。

- ✓ 「対話・エンゲージメント方針」
- ✓ 「ESG インテグレーション方針」
- ✓ 「特定の兵器製造企業の除外方針」
- ✓ 「気候変動に関する方針」

○責任投資活動に係る諸方針の全体像



※サステナビリティレポート 2022/2023 より抜粋

- ・2023年2月に、これまでのステewardシップ活動報告を主眼とした「STEWARDSHIP REPORT」から大幅に改訂を行い、コーポレートの体制や当社のパーパス・マテリアリティ、責任投資活動全般を網羅的に記した「SUSTAINABILITY REPORT」<sup>2</sup>を発行しました。
- ・当社がインハウスで運用を行うインパクトファンド「日本株式インパクト投資ファンド」および「グローバルインパクト投資ファンド(気候変動)」において、インパクト測定管理プロセス（IMM プロセス）を構築しました。
- ・IMM プロセスに基づき、創出された社会的インパクトの定量・定性評価を実施し、インパクトレポート<sup>3</sup>を発行しました。
- ・グローバルインパクト投資ファンドによる気候変動問題の課題解決に向けた取組が評価され、「21世紀金融行動原則」において2022年度の最優良取組事例として「環境大臣賞(総合部門)」を受賞しました。

当社は、組成した公募ファンドのすべてについて運用パフォーマンスの改善と情報提供等その他運用サービスの充実に向けた取組を継続し、お客さまへの長期にわたる付加価値の提供を目指しています。

このような取組を継続することにより、お客さまから支持され選んでいただける運用会社となり、結果として当社が設定する公募ファンドの残高拡大に繋がると考えています。当社はすべての公募ファンドについて、一定の残高規模（純資産総額で100億円以上）を目指しています。

2022年度は期初に複数の公募ファンドが繰上償還となったことに加え、公募18ファンドを新規に組成したことから、2021年度末と比較して純資産総額100億円以上のファンド数は減少し、全体のファンド数に占める割合も低下しました。2023年度は、既存ファンドのパフォーマンス向上とリプロモーションに一層注力し、残高拡大を目指します。

	2023年3月	2022年3月
純資産総額100億円以上のファンド数	19	22
全体のファンド数に占める割合	24.1%	32.4%

<sup>2</sup> サステナビリティレポート 2022/2023 は下記 URL よりご覧ください。

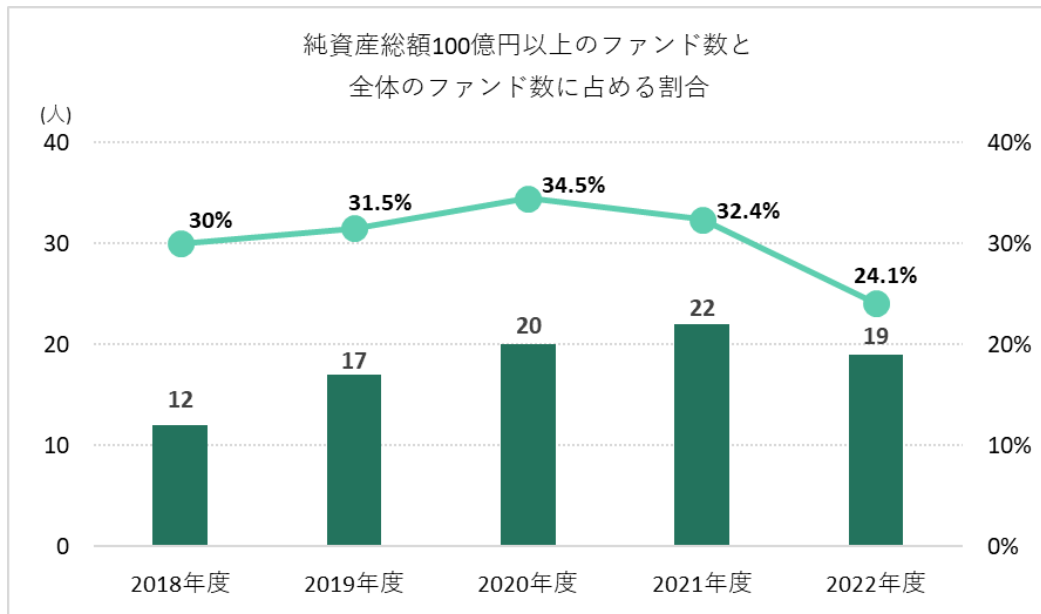
[https://www.resona-am.co.jp/investors/pdf/sus\\_report2022-2023.pdf](https://www.resona-am.co.jp/investors/pdf/sus_report2022-2023.pdf)

<sup>3</sup>各ファンドのインパクトレポートは下記 URL よりご覧ください。

・日本株式インパクトファンド：[https://www.resona-am.co.jp/fund/120021/pdf/impact\\_report.pdf](https://www.resona-am.co.jp/fund/120021/pdf/impact_report.pdf)

・グローバル株式インパクト投資ファンド(気候変動)：[https://www.resona-am.co.jp/fund/120027/pdf/impact\\_report/fy2022.pdf](https://www.resona-am.co.jp/fund/120027/pdf/impact_report/fy2022.pdf)





### 《お客さまの最善の利益を図ることによる、安定した顧客基盤と収益の確保について》

当社は、上述の取組を長期的に継続していくことにより、お客さまから長く支持され選んでいただける運用会社となり、当社の提供する様々な商品を通じて「長期国際分散投資」を実践されるお客さまが増えていくことに繋がると考えています。そしてそれは当社の運用資産全体の分散と安定性に寄与し、結果としてマーケット環境などに左右されない頑健な収益性が確保されると考えます。

当社の公募ファンド全体に占める、バランスファンド、ファンドラップ等のバランス運用向けに提供するファンドの残高は 88.1%、また、確定拠出年金などの積立投資向けに提供するファンドの残高は 15.9%を占めており、当社の収益に長期的に寄与する事が期待されます。

## 2、利益相反の適切な管理

利益相反管理方針等に基づく管理状況については、取組方針に基づき、半期毎に当社の経営会議および取締役会への報告を実施しました。

- ・運用部門に対する当社グループの法人営業部門からの不当な干渉・圧力等の有無について継続的なモニタリングを実施し、該当事例はありませんでした。
- ・また、議決権行使基準および行使結果について、「責任投資検証会議」にて第三者による妥当性検証を実施しています。

### 《利益相反の可能性のある具体的なケースについて》

利益相反の可能性のある具体的なケースについて今年度に見直しを実施しました。



- ・利益相反の想定されうるケースおよび管理方法として、議決権行使にかかる内容を追加しました（従前は投資判断のみ）。
- ・利益相反の想定されうるケースの項目に、ファンド関係者（販売会社および受託会社）が発行する有価証券への投資および議決権行使にかかる内容を追加しました。

### 3、手数料等の明確化

- ・2022年度は、公募ファンドを18ファンド新規に設定しました。いずれも「ファンドガバナンス会議」にて、手数料等について第三者による妥当性の検証を実施しています。
- ・またお客さまへの適切な手数料での商品の提供を目的として、販路に応じた販売代行手数料の設定など、当社の公募ファンドの販売チャンネル毎の手数料の考え方をサービスベースで改めて整理し、ファンドガバナンス会議にて報告しました。
- ・マザーファンドでETFを保有するベビーファンドについて、規則・ガイドライン上での要件ではないものの、2022年4月より目論見書において保有するETFのコストを考慮したトータルコストの表示を開始しました。

### 4、重要な情報の分かりやすい提供

- ・販売時使用資料\*の作成・改訂の際には、お客さまが投資判断を行う際に特に重要な情報と考えられる内容(以下、「重要な投資情報」)について、分かりやすさと網羅性を意識して作成しています。
- ・開示強化の施策として、当社が組成する公募ファンドの中で、ESGファンド/インパクトファンドについて、金融庁より公表されたESG投信に係る「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」の一部改正案の内容も踏まえた法定帳票の記載の充実化を行いました。<sup>4</sup>

※販売時使用資料は、当社ファンドの取扱販売会社（以下、「取扱販売会社」）が、販売・推奨時に利用する運用会社作成資料（販売用資料、目論見書および重要情報シート等）をいいます。

#### 《重要な投資情報に含まれる内容について》

- ・重要な投資情報には以下の内容を含み、公募ファンドの販売時使用資料の作成・改訂の際には、当該情報の分かりやすさと網羅性を意識して作成しています。

（重要な投資情報）

- ✓ 運用方針、運用目的
- ✓ 運用スキーム

---

<sup>4</sup> 当社がインパクトファンド/ESGファンドと位置付ける公募ファンドについては下記をご覧ください。

[https://www.resona-am.co.jp/oshirase/2023/pdf/230309\\_o.pdf](https://www.resona-am.co.jp/oshirase/2023/pdf/230309_o.pdf)

- ✓ 運用手法、投資対象
- ✓ 内包されるリスクとその内容
- ✓ 今後想定される値動き（過去一定期間における収益率（平均、最低、最高））
- ✓ 設定・解約の条件
- ✓ 運用に付随するコストおよびその対価
- ✓ 販売対象として想定する顧客層

#### 《複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等する場合について》

当社は、商品・サービスをパッケージとしてお客さまに販売・推奨することはいたしません。

#### 《お客さまの取引経験や金融知識を考慮の上、誠実な内容の情報提供を行うことについて》

- ・販売時使用資料作成時には、重要な投資情報については、取引経験や金融知識にかかわらず、どのようなお客さまにもご理解いただけるよう、明確かつ平易な言葉で記載するとともに、記載内容は改訂のタイミングで継続的な見直しを行っています。
- ・運用レポートについても、お客さまご自身でファンドの運用状況などを把握できるよう、運用経過やパフォーマンスの要因について分かりやすく記載しています。
- ・取扱販売会社に対し、当社ファンドの説明会などを実施する際においては、推進面での情報提供に偏ることなく、内包するリスク等の重要な投資情報についても十分な情報提供を行っています。

#### 《金融商品・サービスの複雑さに見合った情報提供について》

- ・新規設定ファンドの販売時使用資料について、運用プロセス図の工夫や丁寧かつ平易な表現を利用して作成を実施しました。また、既存ファンドについても文章・図表の表現をより分かりやすいものにするため、継続的に変更・改善を行っています。

#### 《提供する情報を重要性に応じて区別することについて》

- ・ESG ファンド／インパクトファンドの開示促進では、目論見書や運用報告書等に記載する内容についてはただ網羅的な記載をするのではなく、可読性と重要性のバランスを考慮したうえで実施しています。

## 5、お客さまにふさわしいサービスの提供

- ・当社は、公募ファンドについてはプロダクトアウトを基本とし、真のお客さまニーズにお応えできるもの、かつ長期的にコミットすることが可能なファンドを厳選して組成するという方針を掲げています。
- ・「運用委員会」での協議の結果、2022年度は下記の公募ファンドを設定しました。





- ✓ Smart-i Select 全世界株式インデックス
- ✓ Smart-i Select 全世界株式インデックス(除く日本)
- ✓ Smart-i 世界株式気候変動インデックス
- ✓ ラップ型ファンド・プラス ESG(安定型)/(安定成長型)/(成長型)  
<愛称：R246 ESG(安定型)/(安定成長型)/(成長型)>
- ✓ りそな つみたてラップ型ファンド(安定型)/(安定成長型)/(成長型)  
<愛称：つみたて R246(安定型)/(安定成長型)/(成長型)>
- ✓ ターゲットリターンバランスファンド(目標 2%)/(目標 3%)/(目標 4%)/(目標 5%)/(目標 6%) <愛称：(2%)/(3%)/(4%)/(5%)/(6%)未来の箱>
- ✓ りそな つみたてリスクコントロールファンド
- ✓ 日本債券コア・アクティブファンド
- ✓ 日本厳選価値向上株式ファンド <愛称：リバイバル・ジャパン>
- ✓ J-REIT リサーチ・アクティブファンド

・ファンドの組成時には、「運用委員会」にて販売対象として想定する顧客層も含め協議を行ったうえで設定しています。また、公募ファンドすべてについて、組成時に商品性が適切に検討されているか、組成時に想定した運用品質が維持されているか等について、「ファンドガバナンス会議」にて検証を実施しています。

#### **《金融商品・サービスの販売・推奨等に関し留意すべき事項について》**

- ・取扱販売会社の担当者が、お客さまの適合性やライフプランに沿った提案をできるよう、販売会社向けファンド説明会等の実施を通じ、重要な投資情報について十分な情報提供を行いました。
- ・また、取扱販売会社の担当者のフォローアップ、お客さまご自身での運用状況の把握に資する情報として、アクティブファンドを中心に公募ファンドの運用実績等の各種レポート（2022年度 84 件、うち動画 4 件）および市場環境レポート（2022 年度 68 件）<sup>5</sup>を継続的に提供しました。

#### **《複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨する場合について》**

当社は、商品・サービスをパッケージとしてお客さまに販売・推奨することはいたしません。

#### **《販売対象として想定するお客さまの属性の特定・公表等について》**

- ・公募ファンドにおいて、「重要情報シート」の中で想定顧客層についてファンドごとに特定・記載し、販売会社を通じて順次開示を行っています。特に、店頭での提供を想定するインデック

<sup>5</sup>当社の市場環境レポートは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.resona-am.co.jp/market/>

スファンドについては、「店頭での申込をご希望されるお客さまに適したファンド」であることを明確に記載しています。

#### 〈複雑又はリスクの高い金融商品や特定のお客さまの属性に対しての商品の販売・推奨等について〉

当社は、一般的なファンドと比較して複雑もしくはリスクが高いと考えられるファンドとして、①仕組債や複雑なデリバティブ取引を主たる投資対象とするファンド、②投資対象資産の通貨とは異なる通貨の為替リスクが生じる通貨選択型ファンド、③ファンドの純資産を大きく上回る価格変動リスクをとるレバレッジ型ファンドなどが該当すると考えています。当社は、上記のような公募ファンドについて、現時点で組成をしておらず、今後も組成予定はありません。

#### 〈従業員がその取り扱う金融商品の仕組み等に係る理解と、お客さまへの基本的な金融取引などに関する情報提供について〉

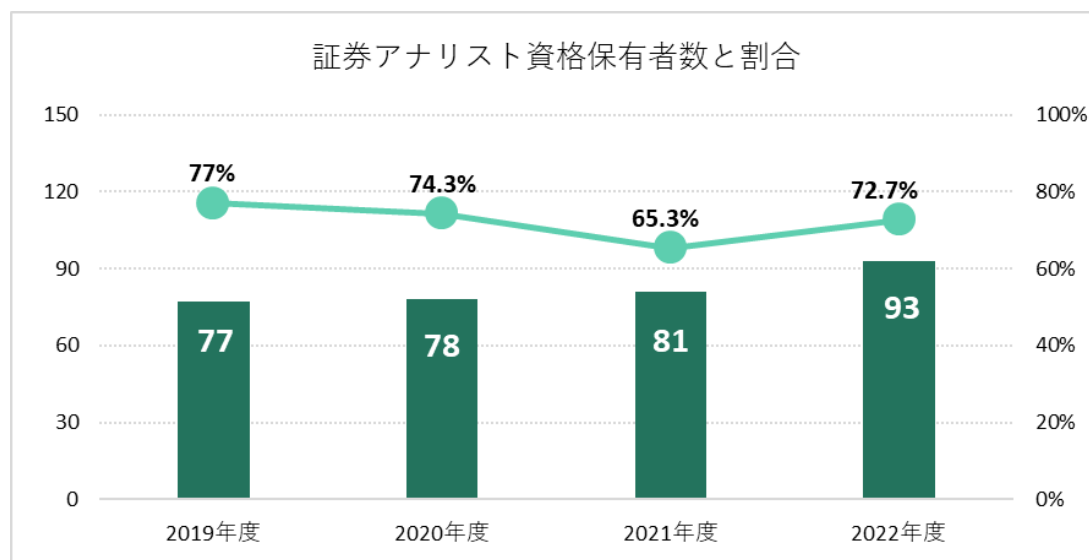
- ・お客さまの資産形成に役立つ情報や現在の市場環境等に関して、オンラインを活用し、販売会社本部および営業店等での研修・勉強会講師対応を3,975カ店向けに実施しました。
- ・ファンドの運用状況や市場環境に関して、お客さまセミナーでの講師対応(年間28件)を行いました。
- ・未来資産形成ラボにて、りそなグループ内外の金融機関の販売担当者に対して、中立的な視点に基づくゴールベース提案手法などの研修プログラムの提供(年間38件)を行いました。
- ・当社 Web サイトやグループ SNS 媒体を利用した資産運用啓発関連のコラム、動画等の情報発信を行いました。
- ・金融教育への取組として、高校への出張授業(年間5件)を実施しました。また、上智大学、関西大学にてSDGsに関する寄附講座を実施しました。

#### 6、従業員に対する適切な動機付けの枠組み等

- ・運用担当者については、主担当ファンドの中長期のパフォーマンス実績等から定量的評価を実施し、長期にわたる運用経験を有する所属長の定性的評価を考慮に入れ、「専門系評価委員会」での協議を経て人事評価を行っています。
- ・運用担当者の定量的評価については、より長期のパフォーマンス実績を考慮に入れるため、対象とする期間を3年から5年に変更しました。
- ・長期的なパフォーマンス最大化と担当ファンドに対するコミットメントを高めるべく、固定給や業績インセンティブとは別途、運用担当者の一部に適用している「繰延インセンティブ制度」について、受給権の付与を開始しました。
- ・最低限の専門性を維持する施策として、当社では全従業員に対して証券アナリストの資格取得を奨励しています。2023年3月末時点での、証券アナリスト資格保有者数および運用関連部署

での保有比率は以下の通りです。

	2023年3月	2022年3月
証券アナリスト資格保有者数と割合	93名 (72.7%)	81名(65.3%)



※運用関連部署は、運用戦略部、インデックス運用部、株式運用部、債券運用部、責任投資部およびトレーディング部を指し、2023年3月末で128名が在籍しています。

- ・当社の倫理規定である「資産運用業務に係る行動規範」(行動規範)を改訂し、資産運用会社のあるべき姿を具現化したものとして”行動原則”、従業員にもとめる行動を記した”行動指針”を明確化しました。隔週で開催される全社員参加の朝礼にて、行動規範の読み合わせを実施しています。

#### 《お客さま本位の業務運営について従業員への周知と支援・検証するための体制について》

- ・お客さま本位の業務運営に関する状況については、6月および11月に当社の経営会議および取締役会に報告を実施いたしました。

以上

《本件に関するお問い合わせ先》

りそなアセットマネジメント株式会社 お客様窓口

Tel : 0120-223351

【別紙】

年金投資基金信託

- アクティブ運用

過去5年（年率換算）

資産名	国内株式					
ファンド名	株式口A	株式口L	株式口W	株式口O	株式口V	株式口Z
超過収益率（対ベンチマーク）	0.97%	0.42%	0.79%	3.61%	1.07%	12.12%
シャープレシオ	0.47	0.39	0.36	0.32	0.43	0.55
インフォメーションレシオ	0.36	0.11	0.11	0.57	0.21	0.55
資産名	国内債券		外国債券	外国株式		
ファンド名	公社債口A	公社債口D	外証券口A	総合口O		
超過収益率（対ベンチマーク）	-0.03%	-0.14%	-0.60%	5.00%		
シャープレシオ	-0.18	-0.22	0.38	0.83		
インフォメーションレシオ	-0.09	-0.39	-0.54	0.56		

過去10年（年率換算）

資産名	国内株式					
ファンド名	株式口A	株式口L	株式口W	株式口O	株式口V	株式口Z
超過収益率（対ベンチマーク）	1.48%	0.94%	1.42%	3.17%	0.90%	21.80%
シャープレシオ	0.75	0.66	0.63	0.75	0.65	1.15
インフォメーションレシオ	0.53	0.27	0.25	0.55	0.21	1.15
資産名	国内債券		外国債券	外国株式		
ファンド名	公社債口A	公社債口D	外証券口A	総合口O		
超過収益率（対ベンチマーク）	0.14%	0.18%	-0.10%			
シャープレシオ	0.38	0.37	0.48			
インフォメーションレシオ	0.53	0.55	-0.10			

過去20年（年率換算）

資産名	国内株式					
ファンド名	株式口A	株式口L	株式口W	株式口O	株式口V	株式口Z
超過収益率（対ベンチマーク）	1.21%	1.14%		1.94%		
シャープレシオ	0.48	0.44		0.55		
インフォメーションレシオ	0.42	0.29		0.35		
資産名	国内債券		外国債券	外国株式		
ファンド名	公社債口A	公社債口D	外証券口A	総合口O		
超過収益率（対ベンチマーク）	0.11%	0.15%	0.12%			
シャープレシオ	0.57	0.57	0.41			
インフォメーションレシオ	0.36	0.33	0.13			

- インデックス運用

過去5年（年率換算）

資産名	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式
ファンド名	公社債口C	株式口C	外証券口O	外証券口C
超過収益率（対ベンチマーク）	0.01%	0.05%	-0.02%	-0.05%
トラッキングエラー	0.04%	0.08%	0.20%	0.07%

過去10年（年率換算）

資産名	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式
ファンド名	公社債口C	株式口C	外証券口O	外証券口C
超過収益率（対ベンチマーク）	0.01%	0.07%	-0.01%	-0.07%
トラッキングエラー	0.04%	0.16%	0.16%	0.08%

過去20年（年率換算）

資産名	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式
ファンド名	公社債口C	株式口C	外証券口O	外証券口C
超過収益率（対ベンチマーク）	0.01%	0.08%	0.02%	-0.09%
トラッキングエラー	0.05%	0.20%	0.19%	0.08%

公募ファンド

- アクティブ運用

過去5年（年率換算）

ファンド名	FWリそな田建債券 アクティブファンド	FWリそな国内株式 アクティブファンド	FWリそな先進国債券 アクティブファンド	FWリそな先進国+ 新興国債券 アクティブファンド
ファンド収益率	-1.73%	4.54%	2.52%	2.21%
シャープレシオ	-0.48	0.31	0.49	0.37
ファンド名	FWリそな先進国株式 アクティブファンド	FWリそな先進国+ 新興国株式 アクティブファンド	FWリそな絶対収益 アクティブファンド	
ファンド収益率	11.45%	9.81%	-1.86%	
シャープレシオ	0.57	0.50	-0.91	

- バランス運用およびインデックス運用

過去5年（年率換算）

ファンド名	りそなラップ型ファンド（愛称：R246）		
	安定型	安定成長型	成長型
ファンド収益率	0.21%	2.80%	6.41%
シャープレシオ	0.05	0.34	0.43
ファンド名	DCグローバル バランスファンド	つみたて バランスファンド	
ファンド収益率	1.45%	5.82%	
シャープレシオ	0.38	0.55	



過去5年（年率換算）

ファンド名	りそなターゲット・イヤー・ファンド		
	2030	2040	2050
ファンド収益率	3.54%	5.62%	7.01%
シャープレシオ	0.47	0.54	0.54

過去5年（年率換算）

ファンド名	FWりそな国内リート インデックスオープン	FWりそな先進国リート インデックスオープン	FWりそな国内債券 インデックスファンド	FWりそな国内株式 インデックスファンド
超過収益率（対ベンチマーク）	-0.44%	-1.36%	-0.30%	-0.39%
シャープレシオ	0.31	0.35	-0.33	0.35
トラッキングエラー	0.09%	0.36%	0.04%	0.06%
ファンド名	FWりそな先進国債券 インデックスファンド （為替ヘッジなし）	FWりそな先進国債券 インデックスファンド （為替ヘッジあり）	FWりそな新興国債券 インデックスファンド	FWりそな先進国株式 インデックスファンド
超過収益率（対ベンチマーク）	-0.45%	-0.58%	-2.24%	-0.85%
シャープレシオ	0.46	-0.47	-0.01	0.73
トラッキングエラー	0.53%	0.27%	1.76%	0.40%
ファンド名	FWりそな新興国株式 インデックスファンド	FWりそな国内リート インデックスファンド	FWりそな先進国リート インデックスファンド	
超過収益率（対ベンチマーク）	-1.79%	-0.44%	-1.36%	
シャープレシオ	0.12	0.31	0.35	
トラッキングエラー	1.01%	0.09%	0.36%	

過去5年（年率換算）

ファンド名	Smart-i 国内債券インデックス	Smart-i TOPIXインデックス	Smart-i 日経225インデックス
超過収益率（対ベンチマーク）	-0.16%	-0.22%	-0.38%
シャープレシオ	-0.27	0.36	0.42
トラッキングエラー	0.05%	0.06%	0.39%
ファンド名	Smart-i 先進国債券インデックス （為替ヘッジなし）	Smart-i 先進国債券インデックス （為替ヘッジあり）	Smart-i 先進国株式インデックス
超過収益率（対ベンチマーク）	-0.26%	-0.39%	-0.60%
シャープレシオ	0.50	-0.43	0.75
トラッキングエラー	0.53%	0.27%	0.40%
ファンド名	Smart-i 新興国株式インデックス	Smart-i Jリートインデックス	Smart-i 先進国リートインデックス
超過収益率（対ベンチマーク）	-1.49%	-0.28%	-1.13%
シャープレシオ	0.13	0.32	0.36
トラッキングエラー	1.01%	0.09%	0.36%
ファンド名	Smart-i 8 資産バランス		
	安定型	安定成長型	成長型
ファンド収益率	2.20%	5.45%	7.50%
シャープレシオ	0.45	0.58	0.60
トラッキングエラー			

※年金投資基金信託は、株式会社りそな銀行が年金信託契約に基づき提供しているファンドであり、当社が株式会社りそな銀行より運用の再委託を受けているものを記載しています。

※年金投資基金信託の収益率については各種のコストは控除前で計算しています。

※シャープ・レシオは短期金利(有担保コール)控除後の収益率を、当該収益率の標準偏差で除することにより得られる数値です。

※インフォメーション・レシオは、ベンチマークを上回った収益率(超過収益率)の平均を、超過収益率の標準偏差で除することにより得られる数値です。

※年金投資基金信託は代表的なファンド、公募ファンドについては5年以上の運用実績があるものを掲載しています。

※年金投資基金信託のアクティブ運用のファンド名と戦略については、下表をご参照ください。

ファンド名	運用戦略
株式口A	市場型
株式口L	割安株(リサーチ $\alpha$ )
株式口W	グローバル企業
株式口O	小型成長株
株式口V	割安株(クオンツ)
株式口Z	小型株(集中投資)
公社債A	満期構成調整
公社債D	金利予測
外証券口A	外国債券アクティブ
総合口O	りそなグローバル株式